

タイトル	取組項目	取組みの方向性	今後の取組み	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課
(a)意識改革	○気候危機と認識すべき状況であることを府民等にわかりやすく情報発信するなどによる、あらゆる主体が一体となって行動していくための意識改革の取組推進	大阪府地球温暖化防止活動推進センター、市町村等と連携した家庭の取組支援（家庭工診断・省エネ診断・出前講座など） 地球温暖化防止活動推進員による地域における取組支援	大阪府地球温暖化防止活動推進センター、市町村等と連携した家庭の取組支援（家庭工診断・省エネ診断・出前講座など）	○		・大阪府地球温暖化防止活動推進センターと連携し、家庭の省エネ・工取組の支援を行った。	エネ課（府民共創G）
			HEMS・省エネナビ、電気・ガス使用量照会サービス、環境家計簿等の環境負荷の可視化とデータ活用手法の普及促進	○		・第11期地球温暖化防止活動推進員として54名委嘱し推進員の活動支援を行った。	エネ課（府民共創G）
			地球温暖化防止活動推進員や大学生・企業人材等の外部人材を活用した出前講座や省エネアドバイスの実施	○		・家庭での効果的な省エネ・節約のため、エネルギー使用量を「見える化」する方法をホームページに掲載。	エネ課（府民共創G）
			市町村に対する「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」の表明の働きかけや地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定に関する助言・支援	○		・府民と接する機会が多い企業の営業担当者等に地球温暖化防止の研修を実施し、府民への環境啓発の推進を行った。	エネ課（府民共創G）
			関西広域連合と連携した関西夏・冬のエコスタイル、関西エコオフィス運動、キャンペーン等の実施	○		・「おおさかゼロカーボンシティ連絡会」1回、当連絡会幹事会を2回開催し、市町の取組状況や課題を共有	エネ課（気候G）
			府における地球温暖化の現状、本計画の進捗状況の情報発信に加え、気候危機の状況等の内容を拡充してわかりやすく情報発信	○		・「おおさかスマートエネルギー協議会」にてゼロカーボンシティ宣言について、各市町村の取組や検討状況の共有及び働きかけを実施	エネ課（気候G）
			府民・事業者や市町村と気候危機であるとの認識を共有し、脱炭素化に向けて取組みを推進するための新たな場の創設	○		・関西広域連合と連携し、関西夏・冬のエコスタイルの実施にあたり、府内市町村や関係機関等に周知した。	エネ課（府民共創G）
			脱炭素社会の実現等を基本理念とした環境管理基本方針に基づき、全庁的な環境マネジメントシステムを活用して、庁内各部署の取組みを進行管理し、府の事務事業が環境に及ぼす影響を継続的に改善	○		・大阪府地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を大阪府環境審議会気候変動対策部会において進捗管理を実施	エネ課（気候G）
			省エネマニュアルの展開や対策事例の共有等による府有施設全体におけるエネルギー消費量の削減	○		・2022年8月に、公民連携デスク、府内企業とともにカーボンニュートラルがテーマの創発ダイアログを開催	エネ課（気候G）
			具体的な整備基準を盛り込んだ「府有建築物整備における環境配慮指針」に基づく府有建築物の省エネ・省CO2の推進	○		・「大阪府環境管理基本方針」に基づき、ふちよう工取組計画を活用して、PDCAを実施するなど、環境マネジメントシステムの運用を行った。	エネ課（府民共創G）
			「ESCO事業」の府有建築物への導入および府内の民間施設・公共施設への普及啓発	○		・令和3年3月に職場や家庭における具体的な省エネ手法をわかり易く説明した「省エネ推進マニュアル（働き方編）」を策定し、全庁に周知。	エネ課（府民共創G）
			府有施設の建て替え時におけるZEB化の検討及び増改築時におけるZEB技術導入の推進	○		・H31年度より大阪府ホームページに「府有建築物整備における環境配慮指針」の掲載 https://www.pref.osaka.lg.jp/koken_keikaku_seibikankyohairyo/index.html ・令和4年度指针对象申請物件のCASBEE評価実績 一般施設 評価A 3件、住宅施設 評価B+ 2件	公共建築室計画課
			「大阪府電力の調達に係る環境配慮方針」の強化による再生可能エネルギー100%電気など排出係数の低い電力の調達の推進	○		・大阪府新別館（北館・南館）及び4府税事務所においてESCO事業者を決定。 ・2021年度事業者選定施設（大阪府警察本部本庁舎）においてESCO改修工事を実施。 ・大阪府市町村ESCO会議を開催し、府内市町村におけるESCO事業実施を支援 ・各種説明会等の場も活用し、民間建築物等へのESCO事業の普及を促進	公共建築室設備課
			実行計画（事務事業編）の取組内容や実績を市町村等に共有し、市町村等による計画作成を促進するとともに、市町村等からの働きかけによる市町村事業委託・事務委任先の排出削減を促進	○		・府有施設ZEB化WGを開催し、新築（建替えを含む）におけるZEB化の方向性を整理。	エネ課（スマエネG）
			「大阪府ゼロエミッション車等導入指針」の策定・運用による公用車の電動化の推進	○		・大手前庁舎において、2021年4月から再エネ100%電気を使用。	エネ課（府民共創G）
			「大阪府グリーン調達方針」の強化等によるサプライチェーン全体での排出削減の促進	○		・府の策定した、実行計画（事務事業編）や、職場や家庭での省エネ手法を説明した「省エネ推進マニュアル（働き方編）」をHPに掲載。	エネ課（府民共創G）
○環境情報や府の取組状況等のわかりやすい発信及び環境教育の推進	○	ポータルサイトやSNS等を通じた行政・企業・NGO/NPO・民間団体等が持つ環境・エネルギー教育プログラム・教材等に関する情報発信	○		・大阪府ゼロエミッション車等導入指針に基づき、公用車を調達 ・指針のランクを満たさない場合、導入において協議を実施	エネ課（モビG）	
						・令和4年9月に「大阪府グリーン調達方針」を改定し、大阪府独自の基準を追加するなど、強化を図った。	エネ課（府民共創G）
						・ポータルサイトやSNS等を活用し、環境教育に関する情報を発信した。	エネ課（府民共創G）

タイトル	取組項目	取組みの方向性	今後の取組み	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の実況	担当課	
①あらゆる主体の意識改革と行動喚起			幼稚園（こども園含む）・小学校・中学校・高校の各教育課程や年齢層に応じたコンテンツの作成・情報提供、教員・指導者向け研修、取組事例の共有等による環境・エネルギー教育の推進	○		・幼稚園や学校等向けに、オンラインで利用できる教材を含め、ニーズに応じた環境教育教材を選択できるポータルサイトを作成し、各部署の持つ教材も集約して効果的に紹介している。	エネ課（府民共創G）	
			地球温暖化防止活動推進員や大学生・企業人材等の外部人材を活用した出前講座や省エネアドバイスの実施【再掲】	○		府民と接する機会が多い企業の営業担当者等に地球温暖化防止の研修を実施し、府民への環境啓発の推進を行った。	エネ課（府民共創G）	
			民間事業者や大学等と連携し、常時監視データなどの多岐にわたる環境データを活用したWEB講座を開催するなど、学生等若者世代をはじめとした府民の意識向上を促進	○		・府民の環境への理解を促進し、環境データの活用を進めるため、府民向けセミナー及びワークショップを学生等と連携して開催し、SNSを積極的に活用して情報発信を実施（2022年度：3回）	環境保全課	
			オンラインを活用したイベントや環境教育の推進	○		・オンラインイベント「ゼロカーボン・ダイアログ」を開催するとともに、webサイトやSNSで開催状況を情報提供することで、幅広い層に対して、意識と行動変容を促す。	エネ課（府民共創G）	
			大学生、研究者、研究機関や企業等と連携し、イノベーション、社会政策や脱炭素経営等の関連分野の教育・研究活動を支援	○		・おおさか環境賞により顕彰や事例紹介を実施することで活動を支援。	エネ課（府民共創G）	
	(b)持続可能性に配慮した消費の拡大	○カーボンフットプリントの活用などにより、製品・食品やサービスに体化されたエネルギーの無駄を減らす賢い選択（COOL CHOICE）・エンカル消費を推奨し、ライフスタイル・ビジネススタイルの転換を促進	省エネ性能の高いLED・空調機器といった製品の選択促進や再生可能エネルギー電気への切り替えの促進など、COOL CHOICEの各事業内容に関する啓発・普及促進	○		・関西広域連合と連携し、省エネ家電賞キャンペーン・クールチョイスの実施にあたり、府内市町村や関係機関等に周知した。	エネ課（府民共創G）	
			グリーン購入の市町村や事業者への普及の推進	○		・大阪グリーン購入ネットワークへの参画を通して、事業者等へのグリーン購入の普及活動を実施	エネ課（府民共創G）	
			生産・流通段階での地球温暖化対策に貢献する大阪産（もん）の購入など地産地消の促進	○		・大阪産（もん）SNSを通じた情報発信。 Facebook：279回（R5.3月末時点）/Twitter：395回（R5.3月末時点） ・大阪産（もん）商標登録ロゴマーク使用許可件数 1152件（R5.3月末時点） ・農産物の物流効率化によるフードマイレージの削減を目的に、農業関連物流マッチングサービスを実施する民間事業者と連携協定を締結し、集荷配送を実施。 ・府内イベントや府内店舗において、CFPの周知啓発や農産物への算定結果のラベリングを実施（出展イベント：4回/店舗実証：2店舗/ラベリング品数：11品目）	流通対策室ブランド戦略推進課、農政室、エネ課（気候G）	
			民間事業者のポイント制度等と連携した持続可能性に配慮した消費行動の促進	○		・ポイント付与事業者6社による脱炭素ポイント付与の実施 ・脱炭素ポイント制度推進プラットフォーム会議 4回	エネ課（戦略G）	
			○シェアリング・エコノミーの促進など、CO2の削減に配慮したライフスタイル・ビジネススタイルへの転換促進	市町村が実施するフリーマーケットや交換会等の情報発信	○		市町村に照会し、府HPで開催情報を発信。	資源循環課
			未利用食品を有効活用するためのフードドライブの取組みなどの消費者への周知・PR	○		・フードシェアリングに取り組む事業者をおおさか食品ロス削減パートナーシップ制度で登録し、府HPで紹介した。	流通対策室	
			府有施設を活用したカーシェアリング事業の実施	○		・市町村・事業者等が設置するフードドライブの受取窓口の一覧を作成し、府HPで公開 ・環境負荷の少ない方々や資源を共有したくらしの普及を図るため、府営住宅の駐車場を活用したカーシェアリング事業を実施（26団地：60区画実施）	施設保全課	
			車や傘、住居、オフィスなどさまざまなシェアリングサービスを提供するホームページ等の情報発信	○		11月に発行した「「ブラこみ」ほかさん」アクションbook」で紹介。	資源循環課	
			公用車の庁内カーシェアリングの推進	○		・電動超小型モビリティの庁内カーシェアを実施(2021年12月～)	エネ課（モビG）	
			(c)住宅の省エネ	○省エネ性能が高いLEDや高効率空調といった設備・機器の用途に適した導入促進	ZEH等の省エネ住宅に関する取組事例や国・市町村の補助金情報の発信等による省エネ住宅の普及促進	○		・メディアを通じたZEH啓発を実施：3回 ・環境イベントへの出展：2回
	民間事業者のポイント制度等と連携した持続可能性に配慮した消費行動の促進	○				・家電販売事業者と連携した脱炭素ポイント付与の実施	エネ課（戦略G）	
	○大阪府気候変動対策の推進に関する条例や建築物省エネ法等に基づく一定規模以上の住宅を対象とした建築物の環境配慮措置の取組みの促進や省エネリフォームの促進	建築物環境配慮指針による環境配慮技術の普及啓発、導入促進			○		・建築物環境計画書届出のうち環境配慮措置が大変良好な（S又はA評価である）住宅及び建築物の割合が、30%（2022年度）	建築環境課
	一定規模以上の特定建築物（マンション等）に対する建築物環境計画書の作成及び届出・公表制度による環境配慮の促進	○				・建築物の環境配慮制度の推進のための啓発や普及促進の実施	建築環境課	
	環境配慮の模範となる住宅に対する顕彰制度（「おおさか環境にやさしい建築賞」「おおさか気候変動対策賞特別賞（愛称：“涼”デザイン建築賞）」の実施	○				・顕彰制度「おおさか環境にやさしい建築賞（旧：大阪サステナブル建築賞）」の実施(知事賞1点、部門賞4点) ・おおさか気候変動対策賞特別賞（愛称 “涼”デザイン建築賞）の実施(特別賞6点)	建築環境課	
	特定建築物の販売・賃貸広告時の「大阪府建築物環境性能表示」の義務化による環境性能情報の提供	○		・建築物環境計画書の届出件数180件（大阪府受付分）、40件（堺市受付分） ・省エネ基準適合義務対象75件（大阪府受付分、省エネ適合：93%）	建築環境課			
建築物省エネ法等に基づく施策の活用による住宅の断熱化等の省エネ性能の向上	○		※上記数字は住宅及び建築物を含む	建築環境課				

タイトル	取組項目	取組みの方向性	今後の取組み	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度状況	担当課
			リフォーム事業者向けセミナーや住宅相談窓口担当者等講習会における啓発	○		・リフォーム事業者向けセミナー（出席者37名）及び住宅相談窓口担当者講習会（出席者49名）において、省エネリフォームによる住まいの性能向上や、補助制度が記載されている「住宅リフォームガイドブック」を配布することで啓発を実施	居住企画課・建築環境課
			住宅の環境配慮義務の省エネルギー基準に関する対象範囲の拡大	▽	国の検討会等の方向性、法改正の動きを受けて、答申内容への対応を検討	・温暖化対策部会にて議論を実施し、2021年6月に環境審議会において「環境配慮のあり方」について答申を受け、国の動きを注視しながら、施策研究を進めた。なお、建築物省エネ法の改正（R4.6.17公布）により、全ての新築住宅の省エネ基準適合義務化や再エネ利用促進区域制度の創設等が予定されている。	建築環境課
			特定建築物に対する再生可能エネルギーの導入促進の強化	▽			
			建築物省エネ法に基づく建築士から建築主への説明時の住宅の環境配慮に伴う付加的メリットに関する周知啓発の促進	○		・条例改正（2022.4施行）により、府域における建築物のエネルギーの使用抑制に対する建築主の理解を促進するため、建築士が建築主への情報提供を行う努力義務規定を追加。また、建築主が建築士に対して同様の説明を求める旨の努力義務についても、本条例第15条第1項に規定する「建築物環境配慮指針」に追加。なお、啓発ツールとして啓発チラシ「待たなし！省エネ住宅」を作成。	建築環境課
		○ZEHやライフサイクルカーボンマイナス住宅（LCCM住宅）の普及促進	ZEH等の省エネ住宅に関する取組事例や国・市町村の補助金情報の発信等による省エネ住宅の普及促進【再掲】	○		・メディアを通じたZEH啓発を実施：3回 ・環境イベントへの出展：2回【再掲】	エネ課（スマエネG）
			住宅展示場におけるZEHリーフレットの配架や関連イベント等による省エネや快適性等に訴求した府民へのZEH普及啓発	○		・住宅展示場等でのリーフレット配架：約2000枚	エネ課（スマエネG）
			ハウスメーカーや工務店等と連携したZEH宿泊体験事業等の実施による普及促進	○		・宿泊体験者数：19組	エネ課（スマエネG）
			ZEVの蓄電・給電機能をZEHに活用したシステム（V2H）の周知啓発	○		・関西広域連合と連携して作成した動画による周知啓発の実施	エネ課（モビG）
			市町村等が実施する住宅施策と連携したZEHの普及促進	▽	適宜	・環境イベントへの出展：2回【再掲】	エネ課（スマエネG）
	(a) 脱炭素経営	○ESG投資の活性化や金銭的インセンティブを用いた自主的取組の促進などによる企業経営における脱炭素化の推進	おおさかスマートエネルギーセンターによる、中小事業者における省エネ・省CO2の取組みに関するワンストップ相談対応	○		・おおさかスマートエネルギーセンターへの相談問合せ件数：1058件	エネ課（スマエネG）
			イベント等のほか、温暖化防止条例に基づく特定事業者の報告書でのカーボン・オフセット制度の活用促進	○		・大阪府地球温暖化の防止等に関する条例に基づく対策計画書・実績報告書において、クレジットによる削減量を記載	エネ課（気候G）
			府内企業によるSBT認定取得やRE100への参加、中小事業者による再エネ100宣言 RE Actionへの参加の促進	○		・中小事業者向けセミナーやメルマガ配信により、再エネ電気の調達やRE100宣言への参加を促進。 ・府域で利用可能な再エネ電気メニューを紹介するホームページを作成し、府民に周知。	エネ課（戦略G、気候G）
			優良事例の情報発信等によるサプライチェーン全体での排出削減の促進	▽	今後検討予定		エネ課（気候G）
			CO2削減クレジットの活用や技術支援等を通じた域外でのCO2削減への貢献の促進	▽	今後検討予定		エネ課（気候G）
			地域金融機関によるESG投資の活性化や事業者・投資家の理解促進、事業者における案件形成やモニタリング・実績評価等のノウハウの獲得支援等を通じた中小事業者の脱炭素経営の促進	○		・R5.4月に脱炭素経営宣言登録制度を開始 ・地域金融機関のESG融資商品など、府内支援機関と連携した各種支援メニューの提供	エネ課（気候G）
			インターカルカーボンライジングなど脱炭素化に配慮した企業活動の事例の紹介などの情報発信	▽		・地域金融機関などの府内支援機関に向けて、脱炭素化に配慮した企業活動の事例の紹介などを実施	エネ課（気候G）
		○様々な分野における脱炭素化に貢献する製品やサービスの開発・普及促進	消費時に省エネに貢献する商品など、自社のみならずサプライチェーンでの脱炭素化に貢献する先進的で優れた取組みに対する顕彰や事例紹介の実施	○		・おおさか環境賞の対象を広げ、自社外に貢献する取組みを顕彰、事例紹介することにより、取組みの促進を図る。	エネ課（府民共創G）
			農業分野の脱炭素化に貢献する農業生産資材の民間開発及び普及の促進	○		・脱炭素に貢献する農業生産資材のニーズについて、情報収集を継続実施。	農政室
	(b) 事業者による取組促進	○届出制度等による温室効果ガス排出抑制対策の推進や温室効果ガス排出量削減率や取組内容の評価制度の導入など、気候変動対策推進条例に基づく大規模事業者の取組促進及び優良事例の水平展開	温室効果ガス排出抑制対策の実施率と削減状況を総合的に評価する制度の導入による取組促進	○		・実績報告書（2021年度）の届出件数：787件 ・2019年度から2021年度までを計画期間とする事業者の最終年度（2022年度提出）の実績報告書のうちAAA評価：21件	エネ課（気候G）
			特定事業者の先進的で優れた取組みに対する顕彰制度（「おおさか気候変動対策賞」）の実施	○		・令和4年度おおさか気候変動対策賞 大阪府知事賞：2者、優秀賞：3者 ・届出の評価結果に基づく顕彰 特別賞：2者	エネ課（気候G）
			気候変動対策推進条例に基づく特定事業者計画書・報告書制度等の取組強化	○		・環境審議会に諮問し、気候変動対策部会で検討の上、パブリックコメントを実施し、条例改正実施	エネ課（気候G）
		○中小事業者向けの省エネ診断や省エネ・省CO2支援	省エネ・省CO2に関するセミナー等の開催及び事業者団体等が実施するセミナー等への講師派遣	○		・省エネセミナーの開催・講演：42件	エネ課（スマエネG）
			おおさか版BEMS事業者登録制度等によるエネルギー使用量等の「見える化」による運用改善の取組促進	○		・おおさかエネ普及促進事業者数：18社	エネ課（スマエネG）
			省エネ支援機関と連携した中小事業者における省エネ診断の実施	○		・無料省エネ診断の受診件数：5件 ・省エネ最適化診断の受診件数：6件	エネ課（スマエネG）
			省エネを実行するまでのプロセスの最初から最後までを切れ目なくサポートする事業等によるフォローアップ支援	○		・「省エネコストカットまるごとサポート事業」の実施件数：33件	エネ課（スマエネG）
			中小事業者の脱炭素化の取組みへの補助を実施	○		・中小事業者の脱炭素化促進事業：補助件数 省エネ診断4件、省エネ設備更新等37件 ・中小事業者LED導入促進事業：補助件数 388件	エネ課（スマエネG）

タイトル	取組項目	取組みの方向性	今後の取組み	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課
②事業者における脱炭素化に向けた取組促進	(c) 建築物の省エネ	○省エネ性能が高いLEDや高効率空調といった設備・機器の用途に適した導入促進【再掲】	環境マネジメントシステム（エコアクション21等）の普及促進 MOBIO(ものづくりビジネスセンター大阪)におけるおおさかスマートエネルギーセンター実施の省エネ診断・補助金など各種支援制度に関する府内ものづくり中小企業への情報提供	○		・府HPにより周知 HP・メルマガによる情報提供 ・MOBIO HP及びニュースレター(メルマガ) 掲載 3回 ・ものづくり支援ニュース(メルマガ) 掲載 2回 ・大阪府「匠」ニュース(メルマガ) 掲載 3回 MOBIOコーディネータ・支援機関会議での情報提供 4回 省エネセミナーの開催 3回	エネ課(スマエネG) ものづくり支援課
			中小事業者の先進的で優れた取組みに対する顕彰制度(「おおさか気候変動対策賞」)の実施	○		・令和4年度おおさか気候変動対策賞 大阪府知事賞：2者、優秀賞：3者	エネ課(気候G)
	○大阪府気候変動対策の推進に関する条例や建築物省エネ法等に基づく建築物の環境配慮措置の取組みの促進	ZEB等の省エネ性能の高い建築物に関する取組事例や国・市町村の補助金情報の発信等による中小事業者等における省エネ建築物の普及促進	ESCO事業」の府有建築物への導入および府内の民間施設・公共施設への普及啓発【再掲】	○		・ZEB施設見学会を開催：1回	エネ課(スマエネG)
			建築物環境配慮指針による環境配慮技術の普及啓発、導入促進【再掲】	○		・大阪府新別館(北館・南館)及び4府税事務所においてESCO事業者を決定。 ・2021年度事業者選定施設(大阪府警察本部本庁舎)においてESCO改修工事を実施。 ・「大阪府市町村ESCO会議」を開催し、府内市町村におけるESCO事業実施を支援 ・各種説明会等の場も活用し、民間建築物等へのESCO事業の普及を促進	公共建築室設備課
		一定規模以上の特定建築物(事務所・店舗等)に対する建築物環境計画書の作成及び届出・公表制度による環境配慮の促進	○		・建築物環境計画書届出のうち環境配慮措置が大変良好な(S又はA評価である)住宅及び建築物の割合：30%(2022年度) ・建築物の環境配慮制度の推進のための啓発や普及促進の実施	建築環境課 建築環境課	
		環境配慮の模範となる建築物に対する顕彰制度(「おおさか環境にやさしい建築賞」「おおさか気候変動対策賞特別賞(愛称：“涼”デザイン建築賞)」)の実施	○		・顕彰制度「おおさか環境にやさしい建築賞(旧：大阪サステナブル建築賞)」の実施(知事賞1点、部門賞4点)	建築環境課	
		建築物省エネ法等に基づく施策の活用による建築物の断熱化等の省エネ性能の向上	○		・おおさか気候変動対策賞特別賞(愛称：“涼”デザイン建築賞)の実施(特別賞6点)	建築環境課	
		特定建築物の販売・賃貸広告時の「大阪府建築物環境性能表示」の義務化による環境性能情報の提供【再掲】	○		・建築物環境計画書の届出件数180件(大阪府受付分)、40件(堺市受付分) ・省エネ基準適合義務対象75件(大阪府受付分、省エネ適合：93%) ※上記数字は住宅及び建築物を含む(再掲)	建築環境課	
		建築物の環境配慮義務の省エネルギー基準に関する対象範囲の拡大	▽	国の検討会等の方向性、法改正の動きを受けて、	・温暖化対策部会にて議論を実施し、2021年6月に環境審議会において「環境配慮のあり方」について答申を受け、国の動きを注視しながら、施策研究を進めた。なお、建築物省エネ法の改正(R4.6.17公布)により、全ての新築建築物の省エネ基準適合義務化や再エネ利用促進区域制度の創設等が予定されている。	建築環境課	
		特定建築物に対する再生可能エネルギーの導入促進の強化【再掲】	▽	答申内容への対応を検討			
		建築物省エネ法に基づく建築士から建築主への説明時の建築物の環境配慮に伴う付加的メリットに関する周知啓発の促進	○		・条例改正(2022.4施行)により、府域における建築物のエネルギーの使用抑制に対する建築主の理解を促進するため、建築士が建築主への情報提供を行う努力義務規定を追加。また、建築主が建築士に対して同様の説明を求める旨の努力義務についても、本条例第15条第1項に規定する「建築物環境配慮指針」に追加。なお、啓発ツールとして啓発チラシ「待たない！省エネ住宅」を作成。	建築環境課	
		○ネットゼロエネルギービル(ZEB)に向けた建築物の省エネ及び再生可能エネルギーの導入促進	ZEB等の省エネ性能の高い建築物に関する取組事例や国・市町村の補助金情報を提供する等により、中小事業者等における省エネ建築物の普及促進【再掲】 民間施設の新築・建て替え時におけるZEB化の推進のため、ZEBの好事例等の情報発信やZEBセミナー等の実施による積極的な啓発 府有施設の建て替え時におけるZEB化の検討及び増改築時におけるZEB技術導入の推進【再掲】	○ ○ ○		・ZEB施設見学会を開催：1回 ・ZEB施設見学会を開催：1回	エネ課(スマエネG) エネ課(スマエネG)
	○分散型エネルギーの面的利用の推進	府・市町村等の開発計画におけるエネルギー面的利用の検討・導入促進	▽		適宜	・開発計画のある自治体への働きかけを実施	エネ課(スマエネG)
	(d) 技術革新	○脱炭素化に向けた技術革新の誘発・加速(CO2フリー水素、蓄電池、ZEH・LCCM住宅、ZEB、ZEV(詳細は後述)、カーボンサイクル、CO2吸収技術等)	電池(蓄電池、水素・燃料電池等)関連産業を核とした産業振興の強化(技術開発支援、中小企業参入促進など)	○		・蓄電池、水素・燃料電池、再生可能エネルギー等に関する研究開発等支援 エネルギー産業創出促進事業：採択6件 ・エネルギービジネス関連の大手・中堅企業と中小企業との技術マッチング件数：96件	産業創造課
			電池(蓄電池、水素・燃料電池等)関連分野における実証プロジェクトなどの創出支援	○		・カーボンニュートラル技術の開発・実証支援 カーボンニュートラル技術開発・実証事業：採択8件	産業創造課
			バイオプラスチックへの転換支援(研究開発支援、中小企業参入促進等)	○		・バイオプラスチック製品のビジネス化に向けた課題やニーズに関する調査分析を実施	産業創造課

タイトル	取組項目	取組みの方向性	今後の取組み	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課	
			脱炭素技術を対象とした環境先進技術シーズ及び国内外のニーズ調査を活用したイノベーション促進と府民理解促進	○		・脱炭素技術と海洋プラスチック対策技術の分野において、府内の状況に応じた普及の取組みが必要と考えられる環境先進技術シーズについて、地域の企業や研究開発者等による産学官タスクフォースを新たに設置し、2050年までの府域での普及シナリオや促進、課題解決手法、将来事業構想や海外ニーズ情報を踏まえた万博での発信方法などを検討。 ・地域普及シナリオなどの検討結果をシンポジウムや啓発冊子等により府民に広く周知。	エネ課（戦略G）	
			府内企業による国庫事業（カーボンニュートラルに向けた革新的な技術開発に対する支援を行う基金等）の活用支援	▽	今後検討予定		エネ課、産業創造課	
③CO2排出の少ないエネルギー（再生可能エネルギーを含む）の利用促進	(a)様々なアプローチによるCO2排出の少ないエネルギーの利用促進	○CO2排出の少ない電気の選択促進	小売電気事業者による再生可能エネルギー電気の販売メニューなどの情報提供	○		・小売電気事業者が販売する再エネ電気メニューを任意で入手しホームページで当該メニューの情報提供を実施。	エネ課（戦略G、スマエネG）	
			市町村に対する再生可能エネルギー電気の調達促進	○		・おおさかスマートエネルギー協議会等で再エネ入札結果等の情報共有、調達を検討している市町村に対し入札手法等についての相談対応（サポート）を実施。	エネ課（府民共創G、気候G）	
			実行計画（事務事業編）に基づく、「大阪府電力の調達に係る環境配慮方針」の強化による府有施設における再生可能エネルギー100%電気など排出係数の低い電力の調達の推進及び調達方法の事業者への普及促進	○		・大手前庁舎において、2021年4月から再エネ100%電気を使用。 ・「大阪府電力の調達に係る環境配慮方針」に基づき、CO2排出係数の低い電力の調達及び再生可能エネルギー比率が高い電力の調達の強化を図った。	エネ課（府民共創G、戦略G、スマエネG、気候G）	
			温暖化防止条例に基づく特定事業者の計画書・報告書制度における再生可能エネルギーの利用状況等に関する報告の追加	◇	2023年度	・2023年4月1日に条例施行	エネ課（気候G）	
			小売電気事業者の電力販売量・再生可能エネルギー導入量等に関する新たな計画書・報告書制度の創設・運用	○		・新たな計画書・報告書制度に関する指針の策定作業を実施。 ・新たな制度に関する小売電気事業者向けの説明会を実施。	エネ課（戦略G）	
			○多様な手段による再生可能エネルギーの調達	再エネ電力調達マッチング事業等による府民や事業者が再生可能エネルギーを選択できる環境づくり	○		・再エネ電力調達マッチング事業：38施設	エネ課（スマエネG）
		○CO2排出の少ないまちづくり・都市再開発の推進	都市計画区域マスタープランに示した方針等にも留意し、新エネルギー・省エネルギー技術の活用、エネルギー的利用等の促進により、エネルギー利用効率の高い都市の形成を促進	▽	適宜	・開発計画のある自治体への働きかけを実施	計画調整課、エネ課	
	(b)再生可能エネルギー等の設置促進	○周知啓発による太陽光発電設備等の設置促進	一定の基準を満たす優良な太陽光発電・蓄電池システムの製造者・施工店・販売店の登録及び公表	○		・登録事業者数 製造者：18件、施工店：17件、販売店：35件	エネ課（スマエネG）	
			府・市町村等保有資産（土地、屋根等）を活用した太陽光発電設備の導入促進	○		・府域の公共施設での屋根・土地貸し事業実績：227施設で運用中	エネ課（スマエネG）	
			自家消費型の太陽光発電の導入モデルの普及促進	○		・太陽光発電の普及拡大セミナーを開催：1回 ・事業者向け太陽光発電導入ハンドブックを作成	エネ課（スマエネG）	
			○レジリエンス強化の観点での太陽光発電設備等の設置促進	災害時等のレジリエンス強化にも寄与する公共施設や防災拠点、避難所等への太陽光発電設備等の導入促進	○		・府域の公共施設での屋根・土地貸し事業実績：227施設で運用中	エネ課（スマエネG、戦略G）、災害対策課
			○費用負担の軽減による太陽光発電設備等の設置促進	太陽光パネル及び蓄電池システムの共同購入支援事業等による太陽光発電及び蓄電池の普及促進 金融機関と連携した太陽光発電設備等の設置に利用できる低利で手続きが簡単な個別クレジットローン等による普及促進	○		・契約数：184世帯（太陽光発電555.28kW、蓄電池1121.4kWh） ・おおさか低利ソーラークレジット事業：77件	エネ課（スマエネG）
			○公共施設等における未利用エネルギーの有効活用	上水道施設やダム等における小水力発電の導入促進	○		・滝畑ダムにて事業調整中	エネ課（スマエネG）
				水みらいセンター（下水処理場）における消化ガスを活用したバイオマス発電の活用	○		・原田水みらいセンターにて実施中	下水道室
				水みらいセンター（下水処理場）における自家消費及びFITを活用した売電や屋根貸しによる太陽光発電の活用	○		・自家消費：中央水みらいセンターにて実施中 ・FIT活用：府内7処理場にて実施中（南部水みらいセンターほか） ・屋根貸しによる太陽光発電の活用：府内3処理場にて実施中（高槻みらいセンターほか）	下水道室
			ごみ焼却施設の排熱を、エネルギーとして発電や暖房・給湯に有効利用	○		・ごみ焼却余熱による発電機出力：239,400kW（2022年度未時点）	エネ課、資源循環課	
	○蓄電池、水素・燃料電池等の研究開発支援及び導入促進	電池（蓄電池、水素・燃料電池等）関連産業を核とした産業振興の強化（技術開発支援、中小企業参入促進など）【再掲】	○		・蓄電池、水素・燃料電池、再生可能エネルギー等に関する研究開発等支援 エネルギー産業創出促進事業：採択6件 ・エネルギービジネス関連の大手・中堅企業と中小企業との技術マッチング件数：96件	産業創造課		
		電池（蓄電池、水素・燃料電池等）関連分野における実証プロジェクトなどの創出支援【再掲】	○		・カーボンニュートラル技術の開発・実証支援 カーボンニュートラル技術開発・実証事業：採択8件	産業創造課		
(a)ZEVを中心とした電動車等の普及促進	○環境性能の優れた電動車を普及。特にZEVの普及を重点化	官民連携した組織におけるZEVを中心とした電動車の率先導入、普及啓発	○		・「おおさか電動車協働普及サポートネット」等と連携した電動車展示会・試乗会の実施（2022年度：5回）	エネ課（EVG）		
		水素関連産業への中小企業の参入を促進するためのセミナーやイベント等を通じたFCV等のPR	○		・水素関連産業技術ニーズ説明会（オンライン）申込者数 731名 ・商工会議所BCPセミナーでのPRおよび給電デモの実施：7件 ・補助金の完了検査の他、企業訪問等65回出動	産業創造課		

タイトル	取組項目	取組みの方向性	今後の取組み	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課		
④輸送・移動における脱炭素化に向けた取組促進			二輪EVのバッテリーシェアリングシステムの社会実証等の実施	○		・バッテリー交換式二輪EVの実証実験を実施（R4.7終了）。 ・3ヶ月毎にモニターを入れ替えながら、走行データを収集し、バッテリー利用状況等を調査。 府・阪大・自動車工業会（二輪メーカー4社） モニター20名/期 バッテリー交換場所12ヶ所	産業創造課		
			大阪府ゼロエミッション車等導入指針の策定・運用による公用車の電動化の推進【再掲】	○		・大阪府ゼロエミッション車等導入指針に基づき、公用車を調達 ・指針のランクを満たさない場合、導入において協議を実施	エネ課(モビG)		
			ZEVを中心とする電動車の普及促進に向けた制度の検討	○		・気候変動対策条例（2022年4月改正）に基づき、府内における新車販売台数3,000台以上の自動車販売事業者を対象として計画書・実績報告書の届出を義務付け ・電動車普及計画書（2022年度：17件）	エネ課(モビG)		
			○レンタカー・カーシェアリングサービスにおけるZEVの普及 ○バス・トラックをはじめ様々な交通・輸送手段の電動化の促進	ZEVを使用したレンタカー、カーシェアリングの普及促進 新たな技術実証（電気推進船、水素燃料電池船等）に対する支援	○		・府民を対象としたEVカーシェア体験事業を実施	エネ課(モビG)	
				ZEVを中心とする電動車の普及促進に向けた制度の検討【再掲】	○		・水素エネルギーの利活用の拡大を図ることを目的とした「H2Osakaビジョン」を推進 H2Osakaビジョン推進会議(研究会を含む)：4回	産業創造課	
					○		・環境審議会答申（2021年11月）を踏まえ、公共交通機関であるバスのゼロエミッション化を促進するため、電気バス・燃料電池バスの導入を補助する制度を府内で創設（導入されたバスは、大阪・関西万博における会場アクセス等に利用）。（2022年度：18台）	エネ課(モビG)	
				○充電器・水素ステーションなどのインフラの整備促進、電気自動車のワイヤレス充電化	充電器、水素ステーションなどのインフラの普及促進	○		・環境審議会答申（2021年11月）を踏まえ、基礎充電の代替となるパブリック充電の充実を図るため、目的地充電に対して補助を実施（2022年度：65基） 【府域での普及状況】 ・充電器：大規模で集客数が多い目的地から重点的に設置を促進 急速充電器・・・320基（2022年度末時点） 普通充電器・・・991基（2022年度末時点） ・水素ステーション：利便性の高い都市域の府有地の貸付、ステーション整備の可能性のある公有地情報の提供 府下整備数9ヶ所（2022年度末時点）	エネ課(モビG)、産業創造課
				インフラのコスト低減や高機能化に向けた技術マッチング支援	○		・エネルギービジネス関連の大手・中堅企業と中小企業との技術マッチング件数：96件	産業創造課	
				再生可能エネルギーを活用したEV/PHV充電設備の普及促進	▽		今後検討予定	エネ課	
				○ZEVの蓄電・給電機能をエネルギーシステムの一部として活用（災害時の活用、V2H等）	防災訓練、BCPセミナー、各種イベント等でのEV・FCVの給電機能のPRおよび給電デモの実施	○		・商工会議所BCPセミナーでのPRおよび給電デモの実施：7件 ・補助金の完了検査の他、企業訪問等65回出動 ・関西広域連合と連携して作成した動画で周知啓発の実施 ・「おおさか電動車協働普及サポートネット」と連携したZEV展示試乗会や乗車体験キャンペーンにてZEVの給電機能のPRおよび給電デモを実施 ZEV展示試乗会（2022年度：1回） 乗車体験キャンペーン（2022年8月下旬～10月下旬）	エネ課(モビG)、産業創造課
		(b)新たなモビリティサービスの導入促進	○AIオンデマンド交通、自動運転技術、MaaS等の導入促進	市町村や民間企業と連携し、効率的な移動に寄与するAIオンデマンド交通などの新たなモビリティサービスの導入を促進	○		効率的な移動に寄与するAIオンデマンド交通の普及に向けて、交通事業者と市町村が協力して行う先行モデルづくりを支援する補助制度を創設。 豊能町と堺市を対象エリアとする2事業を採択し、それぞれ実証実験を実施した。 昨年度に引き続き市町村職員向けに「大阪スマートシティパートナーズフォーラム（OSPF）AIオンデマンド交通導入に関するワーキンググループ」を1回開催。上記実証実験の内容等について共有することで機運醸成につなげた（参加27市町）。	戦略推進室	
		(c)公共交通機関・自転車等の利用促進	○観光・商業・まちづくりなど様々な主体との連携による公共交通の利用促進	多機能デジタルサイネージ等による乗継情報、運行情報、沿線の観光情報などの発信や鉄道等で地域の魅力を巡って楽しめるようなモデルルートの提案などのソフト施策による公共交通の利用促進	○		・「地域の魅力を鉄道で巡るモデルルート」を府HPで公表するとともにポスター配布を実施	交通計画課	
			○コンパクトシティ化の推進	居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等のさまざまな都市機能の誘導により、コンパクトシティの形成に向けた取組を推進するため、市町村における立地適正化計画の策定を促進	○		・2023年3月末時点での府内策定市町村数：22市町	計画調整課	
			○歩行者や自転車利用者の安全の確保及び環境整備	駅前広場、駅へのアクセス道路の整備による歩行者や自転車利用者の安全な交通を確保	○		・平成30年3月策定の「大阪府自転車通行空間10か年整備計画（案）」に基づき、自転車関連事故や自転車交通量の多い区間などを対象に自転車通行空間の整備を実施	道路環境課	

タイトル	取組項目	取組みの方向性	今後の取組み	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課
	(d)貨物輸送の効率化の促進	○物流効率化の推進及びCO2排出の少ない輸送手段への転換促進	荷主企業及び物流事業者に対する輸送網の集約・輸送の共同化等の物流効率化やモーダルシフトの促進	○		・自動車NOx・PM法に基づく報告制度を活用したモーダルシフトの促進	環境保全課
		○宅配ボックスの設置や置き配などの再配達削減の取組みの促進	宅配ボックスの設置や置き配、コンビニ受取など再配達削減の取組みの促進	○		・大阪府ホームページで再配達防止の呼びかけを実施	環境保全課
	(e)環境に配慮した自動車利用	○交通渋滞の緩和策やエコドライブの取組みなどの推進	放射、環状方向の道路、鉄道の整備による機能的な交通ネットワークの形成	○		・なにわ筋線整備事業等の促進 ○大都市再生環境道路を構成する阪神高速淀川左岸線の建設等を促進 ○街路の整備 ・(都)三國塚口線・(都)大阪住道線・(都)十三高槻線・(都)大阪岸和田南海線 ○道路の整備 ・新名神関連事業・国道170号・国道371号 ・立体交差事業の推進	道路整備課、交通計画課
			バイパス道路整備や立体交差化事業、すっと交差点対策などによる慢性的な交通渋滞の緩和	公共交通機関の利用、電動車の使用、エコドライブなど環境に配慮したかしい自動車利用の取組を促進	○		・研修会や府HP等において、公共交通機関の利用啓発を実施。 ・自動車NOx・PM法に基づく報告制度を活用した公共交通機関の利用の推進 ・市町村職員を対象としたエコドライブ実車講習会を実施 ・事業者向けエコドライブ講習会を実施
⑤資源循環の促進	(a)循環型社会推進計画に基づく3R等の推進	○3Rと再生可能資源への代替やシェアリングの推進による廃棄物の焼却処理に伴う温室効果ガスの排出削減	豊かな環境づくり大阪府民会議に分科会として設置した「おおさかマイボトルパートナーズ」を通じた様々な主体との連携によるマイボトルの普及促進	○		・メンバーが取り組む内容を取りまとめたアクションプランを策定し、マイボトルスポットの設置と情報発信、イベントなどにおけるマイボトルの普及啓発に取り組んだ。	エネ課（戦略G）
			大阪府リサイクル製品認定制度の運営を通じた再生材の普及促進	○		・ちらしやHPでの情報発信やイベント等に出展し、認定製品をPR ・年1回の認定を実施（2023年3月1日現在294製品）	資源循環課
			市町村が実施するフリーマーケットや交換会等の情報発信【再掲】	○		市町村に照会し、府HPで開催情報を発信。	資源循環課
			バイオプラスチックへの転換支援（研究開発支援、中小企業参入促進等）【再掲】	○		・バイオプラスチック製品のビジネス化に向けた課題やニーズに関する調査分析を実施	産業創造課
			おおさか3Rキャンペーンの実施やマイ容器使用可能店舗の情報提供等による使い捨てプラスチックごみの発生抑制及び分別・リサイクルの促進	○		・10月～11月にかけて3Rキャンペーンを行い、事業者や消費者への3R取組みの啓発を実施（参加1962店舗） ・マイ容器等が利用できる店舗を検索できる「Osakaほかさんマップ」を運営。（2023年3月末時点掲載店舗数：675件）	資源循環課
			車や傘、住居、オフィスなどさまざまなシェアリングサービスを提供するホームページ等の情報発信【再掲】	○		11月に発行した「プラごみほかさんアクションbook」で紹介。	資源循環課
	(b)食品ロス対策推進計画に基づく食品ロスの削減	○府民の食品ロス問題に対する認知度向上及び削減のための具体的な行動促進	食品ロス削減パートナーシップ事業者や市町村と連携し、消費者への食品ロス削減の取組事例を紹介するなど、効果的な消費者啓発の推進	○		・10月の食品ロス削減月間にあわせたパートナーシップ事業者や市町村のイベント等について、府HPや府政だより、SNS等で府民に向けて情報発信した。	流通対策室
			未利用食品を有効活用するためのフードドライブの取組みなどの消費者への周知・PR【再掲】	○		・フードシェアリングに取り組む事業者をおおさか食品ロス削減パートナーシップ制度で登録し、府HPで紹介した。 ・市町村、事業者等が設置するフードドライブの受取窓口の一覧を作成し、府HPで公開【再掲】	流通対策室
		○食品関連事業者の取組みの支援、顕彰等	食品ロス削減パートナーシップ制度の推進及び広く多業種への働きかけを行うことによるパートナーシップ事業者の参加促進	○		・保険会社やメディアなど多様な業種で食品ロス削減に取り組む事業者等に登録いただき、またアップサイクルフードを製造販売する食品製造業の事業者などに参加を促した。 パートナーシップ事業者数38事業者（R5.3月末時点）	流通対策室
	(c)フロン対策の推進	○フロン法対象機器のユーザー等への立入検査や普及啓発に加え、改正フロン法の効果が最大限生かされる取組みの推進	フロン排出抑制法等に基づく、使用済みの家電、業務用冷凍空調機器、カーエアコンからの適正な回収、処理の推進	○		・業務用冷凍空調機器の充填回収業者の登録：2442件（2023年3月末時点） ・立入検査により、業務用冷凍空調機器からの適正なフロン類の回収の実施を指導：10件 ・カーエアコンのフロン類回収業者の登録：146件（2023年3月末時点） ・立入検査により、カーエアコンからの適正なフロン類の回収の実施を指導：27件	産廃指導課
フロン排出抑制法に基づく「フロン類算定漏えい量報告・公表制度」による使用中の業務用エアコンや冷凍冷蔵庫からの漏洩防止のための適正管理の推進			○		・機器管理者に対する立入検査により、記録簿の作成や簡易点検の実施状況等を確認：515件	産廃指導課	
○自然冷媒の利用促進		業界団体への自然冷媒の導入事例に関する広報及び普及促進	◇	今後検討予定		エネ課（気候G）	
(d)熱利用の促進	○廃棄物発電、廃棄物熱利用の導入促進（ごみ焼却施設の排熱をエネルギーとして発電や暖房・給湯に有効利用）	ごみ焼却施設の排熱を、エネルギーとして発電や暖房・給湯に有効利用【再掲】	○		・ごみ焼却炉熱による発電機出力：239,400kW（2022年度末時点）	エネ課、資源循環課	

タイトル	取組項目	取組みの方向性	今後の取組み	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課
⑥森林吸収・緑化等の推進	(a)森林整備・木材利用の促進	○森林経営計画等による適正な森林整備の推進	「森づくり委員会」の取組など森づくりや木材の利用、里山の保全活動等の支援	○		・治山事業 森林の維持造成を通じて、山地に起因する災害から府民の生命財産を保全 工事地区数：25地区（2022年度） ・森林造成事業 森林が有する多面的な公益的機能を高度に発揮させるため、間伐をはじめとする森林整備の実施を支援。特定森林再生事業、森林環境保全直接支援事業において、特殊地帯 8.5ha、再造林6.4ha、下刈10.7ha、除間伐85.2ha、枝打ち2.8ha、森林作業道 7,131.2m（2022年度）を整備 ・森林整備加速化・林業再生事業 2016年度に事業が終了したことに伴い、府事業終了。残額を国へ全額返還（2017年度） ・森林ボランティア参加者数：14,424人	森づくり課
			森林経営計画の策定等による、木材の安定供給体制の構築	○		・森林経営計画策定：75箇所・5933ha（～2021年度末）	森づくり課
		○「森林経営管理制度」に基づく市町村による森林管理の推進	市町村が森林経営管理制度を行うための技術的支援	○		森林経営管理制度に基づき、計画的に森林整備を進めるために必要となる森林境界の明確化のためのマニュアルを作成し、市町村へ配布した。 配布市町村：29市町村（2022年度）	森づくり課
		○府民協働による森づくりの促進	アドプト制度、森林ボランティアなど府民協働による森林整備の促進	○		・アドプトフォレスト制度参加数：39社・団体	森づくり課
		○森林環境譲与税を活用した森林整備・木材利用の促進	市町村による森林整備及び木材利用の促進のための技術的支援	○		・市町村の相談窓口として、「森林整備・木材利用促進支援センター」を設置し、市町村説明会や研修会などを実施 相談対応：延べ182回（2022年度） ・航空レーザー計測及び森林資源解析業務を実施し、森林整備に活用するための現況データを市町村に提供 航空レーザー計測：425km ² （2020年度） ・木材利用に係る技術指導を行うアドバイザーを市町村に派遣 派遣回数：78回	森づくり課
		○公共施設や民間商業施設等における木材利用の促進	公共・民間施設の内装木質化など、府内産木材の利用拡大による持続的な森林整備の促進	○		・内創木質化の事例紹介や木材の特性などを記載した木材活用事例集を作成した。	森づくり課
	(b)都市緑化の推進	○建築物敷地等における緑化の促進	自然環境保全条例に基づく建築物敷地等における緑化の促進	○		・緑化計画書届出件数：426件・届出緑化面積計：220,984㎡	みどり企画課
		○官民連携によるみどりづくりの推進	「みどりの風促進区域」での取組を通じたみどりのたい軸線の形成等によるみどりのネットワーク化の推進	○		・「みどりの風の道形成事業」による民有地緑化支援等、促進区域の緑化を推進 公共緑化（換算）23本（2022年度） 民有地緑化 植栽樹木13本（2022年度）	みどり企画課 公園課
		○都市公園の整備等によるみどりのネットワーク化	大阪府営公園マスタープランに基づく、多様な自然とふれあい、都市の環境を保全する公園づくりの推進	○		・公園拡大に向けた、既事業認可取得区域及び防災公園の施設の整備 ・防災公園、ハリアー化等の機能拡大に向けた施設改修・再整備 ・老朽化の著しい施設等の機能保持に向けた施設改修・再整備 ・2022年度末における府営公園開設面積1,008.7ha	公園課
		○森林環境税の活用による「都市緑化を活用した猛暑対策事業」を通じた駅前広場などにおける植樹等	駅前広場等で、市町村、バス事業者、鉄道事業者等が連携し、都市緑化を活用した猛暑対策に取り組めるよう誘導・支援	○		・採択件数：37件（駅前広場：6件、単独バス停：31件）	みどり企画課
	(c)海洋生態系によるCO2吸収	○ブルーカーボン生成する藻場の造成	令和4年1月に策定した「大阪府海域ブルーカーボン生態系ビジョン」に基づき、藻場造成礁等の設置事業を令和5年度から泉佐野市以南の地先で実施し、藻場を造成	○		・小島・谷川・深日各工区の深浅測量と実施設計を行った。	水産課
			民間事業者等と連携し、既設護岸等においてブルーカーボン生態系を再生・創出	○		・環境省モデル事業を活用し、民間事業者と連携した大阪湾奥部におけるブルーカーボン生態系の再生・創出の取組みを推進。	環境保全課

2030年に向けて取り組み項目（の適応策）

取組みの方向性	具体的な取組内容	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課	ヒートアイランド対策
農業、森林・林業、水産業	<p>・大阪府立環境農林水産総合研究所等と連携した、高温障害を回避するための栽培技術の実施・検討、高温による影響が少ない品種の選定・転換</p>	<p>(水稲) ・有望品種（奨励品種）の選定試験の実施 ○</p> <p>(水稲) ・高温障害回避技術（遅植え・施肥方法等）の検討 ○</p> <p>(果樹) ◆ぶどう ・換気の徹底や着色改善のための技術の普及 ○</p> <p>(果樹) ◆ぶどう ・着色不良による品質低下の影響が少ない青色系品種等への転換 ○</p> <p>(果樹) ◆ぶどう ・暖冬・低温不足による発芽障害の新たな回避技術（薬剤利用等）の検討 ○</p> <p>(果樹) ◆みかん ・高温による品質低下の影響が少ない品種（中晩柑等）の選定・転換 ○</p> <p>(果樹) ◆みかん ・適切な栽培技術の実施と新たな低減効果技術（薬剤利用等）の検討 ○</p> <p>(野菜・花き) ・ハウス内環境制御技術の開発・検討・普及 ○</p> <p>(野菜・花き) ・耐暑性品種や低温要求量の少ない品種の導入検討 ○</p> <p>(野菜・花き) ・暖冬・低温不足による発芽障害の回避技術等の検討 ○</p>		<p>・「つきあかり」「しぶくのみのり」等高温耐性品種の選定試験を実施</p> <p>・中生品種における生育調整剤による被害軽減技術の検討</p> <p>・自動換気装置の開発・普及、環状はく皮技術の改良、植物調整剤処理の検討</p> <p>・シャインマスカットへの品種転換</p> <p>・植物調整剤の活用による休眠覚醒による発芽促進を実施</p> <p>下段の取組に集約</p> <p>・植物調整剤の活用や適切な摘果の実践等により日焼け果の発生を抑制</p> <p>・水なすの低コスト複合環境制御による安定生産の実証</p> <p>・品種選択ではなく、夏季高温条件下における適正栽培管理技術の導入により対応</p> <p>・冷蔵による休眠打破処理技術の導入による発芽障害の回避</p>	<p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>農政室</p>	
畜産	<p>・畜産農家への暑熱対策等技術の普及・指導</p>	<p>(畜産) ・畜舎内の散水・散霧や換気、屋根への、石灰乳塗布等の暑熱対策の普及による快適な畜舎環境の確保 ○</p> <p>(畜産) ・適切な飼養管理技術の指導・徹底 ○</p> <p>(畜産) ・乳用牛の改良と飼養管理技術改善指導による生産性の高い牛群の構築 ○</p>		<p>・生産者による暑熱対策の実施（農畜産業振興機構補助事業の活用）</p> <p>・家畜保健衛生所による農家への暑熱対策等の指導</p> <p>・環境農林水産総合研究所における暑熱ストレス指標の確立と活用に向けた研究、牛群検定の実施</p>	<p>動物愛護畜産課</p> <p>動物愛護畜産課</p> <p>動物愛護畜産課</p>	
病害虫	<p>・病害虫発生の子察調査、防除のための情報発信</p>	<p>(病害虫・動物感染症（病害虫）) ・病害虫の発生・被害の子察調査 ○</p> <p>(病害虫・動物感染症（病害虫）) ・適正な病害虫防除のための情報発信 ○</p> <p>(病害虫・動物感染症（病害虫）) ・気候変動に対応した病害虫防除体系の検討 ○</p> <p>(病害虫・動物感染症（病害虫）) ・侵入警戒調査や侵入病害虫の防除技術の検討 ○</p> <p>(病害虫・動物感染症（動物感染症）) ・発生子察のための継時的抗体調査等による浸潤状況の把握 ○</p> <p>(病害虫・動物感染症（動物感染症）) ・節足動物が媒介する家畜の伝染性疾病に対するリスク管理の検討 ○</p> <p>(病害虫・動物感染症（動物感染症）) ・水禽類の鳥インフルエンザウイルス保有状況モニタリング調査期間の検討 ○</p>		<p>・侵入が懸念される病害虫や新しく発生した病害虫、農業被害が懸念される病害虫に関する迅速な情報提供を行うため病害虫発生状況を調査</p> <p>・農業者に対して、病害虫発生状況および防除方法についてメールサービス、ホームページ等で情報発信</p> <p>・夏期の高湿、豪雨等に伴い病害虫発生状況に変化がみられるため、当該年度の病害虫発生状況を迅速に把握する方法について検討</p> <p>・ミバエ類の侵入警戒調査を毎年実施しているほか、クビアカツヤカミキリなど新たに侵入した病害虫の防除方法を検討</p> <p>・全国的なおとり牛（媒介昆虫の活動する夏を経験していない牛、または抗体陰性牛）の血液抗体検査の実施（6～11月に延べ171検体）</p> <p>・家畜保健衛生所による農家への指導</p> <p>・毎年11月から翌5月まで、府内10カ所で水禽類の糞便を採取し家畜保健衛生所にてウイルス分離検査を実施（2022年度 430検体）</p>	<p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>農政室</p> <p>動物愛護畜産課</p> <p>動物愛護畜産課</p> <p>動物愛護畜産課</p>	
野生鳥獣	<p>・野生鳥獣の生育状況や被害状況、捕獲状況の定期的なモニタリング</p>	<p>(鳥獣害) ◆鳥獣害対策 ・野生鳥獣の生息状況等に関する情報の把握 ○</p> <p>(鳥獣害) ◆鳥獣害対策 ・野生鳥獣による農林業への被害のモニタリングの継続 ○</p> <p>(鳥獣害) ◆鳥獣害対策 ・イノシシ、シカに対し継続して捕獲を強化するとともに、防護柵の設置や耕作放棄地の解消等、総合的な農林業被害防止対策の実施 ○</p>		<p>・シカ・イノシシ・クマ・アライグマ、ヌートリア等の生息状況調査を実施</p> <p>・農協等を通じて農家に対し被害アンケート調査を実施</p> <p>・防護柵や檻・罠の設置に係る補助金の交付</p>	<p>動物愛護畜産課</p> <p>動物愛護畜産課</p> <p>農政室</p>	

2030年に向けて取り組む項目（の適応策）

取組みの方向性	具体的な取組内容	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課	ヒートアイランド対策
・ため池の総合的な防災・減災対策の推進	（農業生産基盤）◆洪水等対策 ・ため池の老朽改修、低水位管理の促進、耐震診断、ハザードマップ作成及び活用、観測機器設置による管理・監視体制の強化促進等、「大阪府ため池防災・減災アクションプラン」に基づき行う、ため池のハード、ソフト対策	○		・「大阪府ため池防災・減災アクションプラン」に基づき、老朽化や耐震対策のためのため池改修、洪水調整機能を活かした低水位管理、余水吐スリット設置、災害への備えや地域防災向上に資するため池ハザードマップ作成、簡易防災テレメータの設置・運用を実施。ため池管理者等への防災・減災対策の啓蒙のための研修開催。	農政室	
	（農業生産基盤）◆洪水等対策 ・洪水調節機能を有するため池等を活用した総合的な地域の防災機能の向上促進	○		上記に同じ		
・土石流や流木の発生を想定した治山施設の整備や、森林の整備による森林の土砂崩壊・流出防止機能の向上	（森林（山地災害、治山施設））◆山地災害の発生リスクへの対応 □土石流や流木の発生を想定した治山施設の整備や、森林の整備による森林の土砂崩壊・流出防止機能の向上	○		・令和4年度は25地区で治山事業を実施	森づくり課	
	（森林（山地災害、治山施設））◆山地災害の発生リスクへの対応 □治山施設の適切な維持管理の実施	○		・980施設において点検診断を実施	森づくり課	
	（森林（山地災害、治山施設））◆山地災害の発生リスクへの対応 □山地災害が発生する危険性が高い地区の情報提供	○		・府のHPに危険地区情報を掲載し周知 ・危険地区に関するデータを防災マップや広報誌に掲載し、市町村へ提供、配布等を実施	森づくり課	
	（森林（山地災害、治山施設））◆森林の保水機能の維持増進を通じた安定的な水の供給への対応 ・水源地等における浸透・保水能力の高い森林の維持・造成	○		・令和4年度は25地区で治山事業を実施	森づくり課	
・生態系や水産資源に与える影響を解明するための環境モニタリングや、水産資源回復策の検討	（水産業）◆海面漁業 ・水温上昇等の環境変化が生態系や水産資源に与える影響の解明のための環境モニタリングやデータ解析及び水産資源の将来予測	○		・水温等定点観測による漁場環境モニタリング調査	水産課	
	（水産業）◆海面漁業 ・マコガレイ等の不漁原因について調査・研究を行い、資源回復策の検討	○		・冷水性の魚類であるマコガレイやイカナゴの資源調査	水産課	
	（水産業）◆海面漁業 ・水温の上昇等により増加しているハモ等の新たな資源管理の方策の検討	○		・暖水性の魚類であるハモ等の資源調査	水産課	
	（水産業）◆海面漁業 ・ワリ・ワカメ魚場の継続モニタリングと適切な養殖指導、高温対応品種新技術の導入検討	○		・水温上昇に対応したワカメ種生産技術の導入と食害魚モニタリング	水産課	
・有毒プランクトンのモニタリング、貝毒の発生状況等についての監視	（水産業）◆漁場環境 ・有毒プランクトンのモニタリングと貝毒検査、規制値超過による出荷自主規制と注意喚起	○		・有毒プランクトンのモニタリング調査に基づく貝毒検査の実施とその結果を受けての二枚貝の出荷自主規制と注意喚起	水産課	
	（水産業）◆漁場環境 ・新奇有毒プランクトンに関する調査・研究	○		・国との連携による新たな有毒プランクトンのモニタリング調査	水産課	
水環境 ・公共用水域の水温、水質の継続的なモニタリングの実施 ・気候変動が水質へ与える影響を把握するために必要な基礎データの収集・解析や、気候変動への適応策に関する調査研究や対策を推進	◆沿岸域及び閉鎖性海域・河川の水質等のモニタリング、調査検討 —沿岸域及び閉鎖性海域 ・温暖化の影響把握のための大阪湾における水質等のモニタリングの継続実施による基礎データの収集と解析	○		・大阪湾における水質等のモニタリングの継続実施により、基礎データの収集等を実施	環境保全課	
	◆沿岸域及び閉鎖性海域・河川の水質等のモニタリング、調査検討 —沿岸域及び閉鎖性海域 ・温暖化が大阪湾の水温、水質、生態系に及ぼす影響の解析	○		・大阪湾における水温の上昇による生態系への影響について、情報収集を実施 ・大阪湾において、水温が底層D Oに及ぼす影響について、検討を実施	環境保全課	
	◆沿岸域及び閉鎖性海域・河川の水質等のモニタリング、調査検討 —河川 ・温暖化の影響把握のための河川における水質等のモニタリングの継続実施による基礎データの収集及び解析	○		・河川における水質等のモニタリングの継続実施により、基礎データの収集等を実施	環境保全課	
	◆沿岸域及び閉鎖性海域・河川の水質等のモニタリング、調査検討 —河川 ・温暖化が河川の水温、水質、生態系に及ぼす影響の解析	○		・公共用水域常時監視データ等をもとに、河川の水温や硝酸性窒素の経年変化について調査検討を実施 ・河川における水生生物の生息状況の把握及び水温の上昇による生息への影響について検討	環境保全課	
	◆水質の保全 ・下水道の高度処理、合流式下水道改善対策等	○		・雨水沈砂池のドライ化（岸部ポンプ場ほか）	下水道室	

2030年に向けて取り組み項目（の適応策）

取組みの方向性	具体的な取組内容	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課	ヒートアイランド対策
<p>・水防体制の充実・強化、河川整備計画の点検・見直しの実施、及び災害リスク情報の掲示</p>	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（災害リスクの評価） ・人命を守ることを最優先に、様々な降雨により想定される河川の氾濫や浸水の可能性を府民にわかりやすく提示</p>	○		<p>・水防法の改正を受け、想定最大規模降雨を対象とした洪水浸水想定区域図の作成・公表を2021年度までに完了した。加えて、想定最大規模の高潮を対象とした高潮浸水想定区域についても、大阪湾沿岸（大阪府域）にて指定・公表済</p>	都市防災課、河川整備課、	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（観測等の充実） ・河川等の水位等を確実に観測できる観測機器の改良や配備の充実</p>	○		<p>・ホームページで河川の現況を確認できる河川カメラの設置を完了（2022年度は23台増設）</p>	河川整備課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（水防体制の充実・強化） ・重要水防箇所や危険箇所の洪水時の情報を水防管理者へ提示</p>	○		<p>・大阪府重要水防区域図を配布するとともに、府ホームページにて水位情報や洪水リスク表示図などの情報を提示している。</p>	都市防災課、河川整備課、河川環境課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（水防体制の充実・強化） ・洪水等の水位周知の実施</p>	○		<p>・府ホームページにて水位情報を提示するとともに、水位周知河川においては市町村へ水位到達情報の通知や、ホットラインを実施中</p>	都市防災課、河川整備課、河川環境課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（水防体制の充実・強化） ・洪水に関する活動拠点の活用</p>	○		<p>・洪水時における防災ステーションの活用など</p>	都市防災課、河川整備課、河川環境課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（様々な外力に対する災害リスクに基づく河川整備計画等の点検・見直し） ・減災の観点も考慮した最適な河川整備内容、手順となるように河川整備計画の点検・見直しの実施</p>	○		<p>・「今後の治水対策の進め方」の考え方に基づき河川整備計画を変更済み</p>	河川整備課、河川環境課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（決壊に至る時間を引き伸ばす堤防の構造） ・避難等のための時間をできる限り確保できるような堤防の構造の検討</p>	○		<p>・府管理河川での検討を実施</p>	河川整備課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（総合的な浸水対策） ・流域のもつ保水・遊水機能を確保するなどの、総合的な浸水対策の推進</p>	○		<p>・流域内にある既存ストック（調節池、ため池等）を活用した流出抑制による治水対策（2022年度は2箇所で実施）</p>	河川整備課、河川環境課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（地下空間の浸水対策） ・止水板等の設置や適切な避難誘導など、地下空間への浸水防止対策や避難確保対策の作成に向けた支援</p>	○		<p>・洪水浸水想定区域図や高潮浸水想定区域図を作成し提供、タイムラインの各関係機関との防災行動の共有</p>	都市防災課、河川整備課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（災害リスク情報のきめ細かい提示・共有等） ・まちづくり・地域づくりや民間投資の検討、住まい方の工夫に資する、災害リスク情報の分かりやすい提示</p>	○		<p>・府管理河川の洪水リスク表示図の公表（周知）など実施中。さらに水防法の改正を受け、想定最大規模降雨を対象とした洪水浸水想定区域図について、の2021年度までに作成・公表を完了。 ・農業委員会の会議や宅地建物取引業者研修会で洪水リスクの周知活動を実施</p>	河川整備課、河川環境課、計画調整課	
<p>・各主体と連携した災害対応の体制の整備等、「大阪府地域防災計画」に基づく水害対策</p>	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（避難指示の的確な発令のための市町村への支援） ・市町村における避難指示等の具体的な発令基準の策定支援</p>	○		<p>・河川の氾濫危険情報や土砂災害警戒情報が発表された際に、市町村長が行う避難指示等の発令の判断を支援するため、土木事務所長等から市町村長等へ直接電話等により連絡する体制を構築している。 ・令和3年5月の災害対策基本法改正により、新たな避難情報の発令が運用されており、市町村に対して、必要に応じ避難情報発令基準の改定の支援を実施 ・市町村が避難指示等の発令の目安としている氾濫危険水位等について、河川整備の完了等に併せて見直しを行い、関係市に提供</p>	防災企画課、災害対策課、河川整備課、河川環境課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（避難を促す分かりやすい情報の提供） ・河川水位の上昇、高潮等の危険の切迫度が住民に伝わりやすくなるよう、分かりやすい情報の提供および支援</p>	○		<p>・河川カメラの映像、現況水位などの水防災システムでの情報提供及び市町村へのホットラインを実施中</p>	河川整備課	
	<p>（水害）◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策（避難の円滑化、迅速化を図るための事前の取組みの充実） ・自主防災組織リーダー育成研修の実施</p>	○		<p>・府内の自主防災組織等を対象として、組織の中核となる人材の育成及び資質向上を図るためのリーダー育成研修を実施</p>	防災企画課	

2030年に向けて取り組み項目（の適応策）

取組みの方向性	具体的な取組内容	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課	ヒートアイランド対策
	<p>(水害) ◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策 (避難や救助等への備えの充実) ・大規模水害時等における死者数・孤立者数等の被害想定を踏まえ、関係機関が連携した避難等ができるタイムライン(時系列の行動計画)の策定</p>	○		<p>・寝屋川流域や泉州沿岸高潮など複数の市町村にまたがる多機関連携タイムラインについて、対象となる5つ全ての策定が完了</p>	都市防災課、河川整備課	
	<p>(水害) ◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策 (災害時の市町村への支援体制の強化) ・市町村の支援体制の強化(大阪府災害時先遣隊の派遣等)</p>	○		<p>・大規模災害によって、市町村の行政機能が大幅に低下し、災害対応が困難となることを視野に入れて、大阪府災害時先遣隊や現地情報連絡員(リエゾン)の派遣等の必要な体制を整備</p>	災害対策課	
	<p>(水害) ◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策 (防災関係機関、公益事業者等の業務継続計画策定等) ・市町村における業務継続計画の策定支援</p>	○		<p>・消防庁と連携し、市町村を対象とした業務継続計画の策定や非常用電源の整備状況に関する調査を実施するとともに、市町村に対し、重要6要素を踏まえた業務継続計画の充実や業務継続計画の実効性確保の観点からの適切な受援計画の整備や運用についての働き掛けを行った。</p>	防災企画課	
	<p>(水害) ◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策 (各主体が連携した災害対応の体制等の整備) ・施設的能力を大幅に上回る外力により大規模な氾濫等が発生した場合を想定し、各主体が連携して対応するための関係者一体型タイムラインの策定</p>	○		<p>・寝屋川流域や泉州沿岸高潮など複数の市町村にまたがる多機関連携タイムラインについて、対象となる5つ全ての策定が完了し、運用中 ・府や市町村、ライフライン事業者等、様々な関係者が主体的に取り組みべき治水対策をとりまとめた「流域治水プロジェクト」を府管理全154河川を26ブロックに分割し策定</p>	都市防災課、河川整備課	
	<p>(水害) ◆施設の能力を上回る外力に対する減災対策 (各主体が連携した災害対応の体制等の整備) ・住民一人一人がおかれた状況を認識し、適切な行動がとれるよう、テクノロジーの活用によって、個人の行動変容を支援</p>	◇	未定	<p>・2021年度は実施無し ・今後取組む予定なし</p>		
<p>・高潮等による災害時の対応など、ソフト面の対策強化</p>	<p>(高潮・高波) ◆港湾に関する取組み (港湾に関する共通事項(モニタリング、影響評価、情報提供等)) ・高潮浸水リスク、観測潮位に係る情報の地域・企業との共有を行うための支援</p>	○		<p>・2020年度に想定最大規模の高潮を対象とした大阪湾(大阪府域)の高潮浸水想定区域図を作成し、ホームページで公表している。また、高潮による氾濫が発生する危険性を府民に知らせる基準となる「高潮特別警戒水位」を設定し、当該水位に達した場合に高潮氾濫発生情報として発表することとしている。</p>	都市防災課、大阪港湾局	
	<p>(高潮・高波) ◆港湾に関する取組み (堤外地(埠頭・荷さばき地、産業用地等)への影響に対する適応策) ・港湾事業者が策定する高潮等による避難計画の策定支援</p>	○		<p>・港湾事業者が高潮に備える事前防災計画を策定するためのフェーズ別高潮・暴風対応計画の対応例をホームページで公表している。</p>	大阪港湾局	
	<p>(高潮・高波) ◆海岸に関する取組み (災害リスクの評価と災害リスクに応じた対策) ・一連の防護ラインの中で災害リスクの高い箇所の把握と災害リスクの明確化を行うための支援</p>	○		<p>・2020年度に想定最大規模の高潮を対象とした大阪湾(大阪府域)の高潮浸水想定区域図を作成し、ホームページで公表している。</p>	都市防災課、大阪港湾局	
	<p>(高潮・高波) ◆海岸に関する取組み (防護水準を超えた超過外力への対応) ・高潮等に対する適切な避難のための迅速な情報伝達等のソフト面の対策の推進</p>	○		<p>・2020年度に想定最大規模の高潮を対象とした大阪湾(大阪府域)の高潮浸水想定区域図を作成し、ホームページで公表している。また、高潮による氾濫が発生する危険性を府民に知らせる基準となる「高潮特別警戒水位」を設定し、当該水位に達した場合に高潮氾濫発生情報として発表することとしている。</p>	都市防災課、大阪港湾局	
<p>・土砂災害防止施設の整備や土砂災害警戒区域の指定等による警戒避難体制の強化</p>	<p>(土砂災害等) ◆土砂災害の発生頻度の増加への対策 ・人命を守る効果の高い箇所における施設整備</p>	○		<p>・優先度の高い、一の谷などの整備 ・2022年度、土石流対策事業(32溪流)、急傾斜地崩壊対策事業(13地区)を実施</p>	河川環境課	
	<p>(土砂災害等) ◆土砂災害の発生頻度の増加への対策 ・避難場所・経路や公共施設、社会経済活動を守る施設の整備</p>	○		<p>・鉄道や市町村地域防災計画に記載のある避難路等を保全する事業を推進(天野川支川第4支渠(交野市)等)</p>	河川環境課	
	<p>(土砂災害等) ◆土砂災害の発生頻度の増加への対策 ・土砂災害警戒区域等の指定</p>	○		<p>・土砂災害警戒区域の既指定箇所の2巡回調査を引き続き実施</p>	河川環境課	
	<p>(土砂災害等) ◆土砂災害の発生頻度の増加への対策 ・住民に対する土砂災害の危険性の周知</p>	○		<p>・ホームページ上で、土砂災害の危険度情報や土砂災害警戒区域の指定状況の随時更新、警戒避難体制の強化に関する市町村の取り組み事例更新を実施</p>	河川整備課、河川環境課	

2030年に向けて取り組み項目（の適応策）

取組みの方向性	具体的な取組内容	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課	ヒートアイランド対策
				<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省及び厚生労働省の熱中症対策の取り組みに関連して、各市町村を通じて認可保育所、認定こども園、地域型保育事業を行う事業所及び認可外保育施設あてに熱中症事故の防止について周知を実施（5月6日、5月30日の計2件） 	子育て支援課	○
<ul style="list-style-type: none"> ・暑さから身を守るための「涼む」「気づく」「備える」の3つの習慣の普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・暑さ指数の情報メール等の利用促進や事業者等と連携した啓発の実施 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府ホームページ「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」において、「熱中症警戒アラート」のメール配信サービスへの登録を促進 ・株式会社リクルート住まいカンパニーから、みどりのカーテンプクリの取組みとして「カーヤ」の種を提供いただき活用 ・教育関係者向けに2回、高齢者に関わる方向向けに1回の熱中症対策をテーマとしたセミナーを実施 	エネ課	○
<ul style="list-style-type: none"> ・国の指針に基づく蚊媒感染症対策の実施や、感染症予防への注意喚起の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「蚊媒感染症に関する特定感染症予防指針（厚生労働省）」に基づく蚊媒感染症対策の実施、府ホームページでの注意喚起、及び蚊媒感染症を媒介する可能性のある蚊についての実態調査やウイルス保有調査の実施 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲した全ての蚊（1683匹）から、病原体ウイルスの遺伝子は検出されず。 	感染症対策企画課	
産業・経済活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆産業・経済活動 ・作業時における暑さ対策・熱中症対策の周知啓発 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや啓発チラシにおいて、「新しい生活様式」を踏まえた熱中症予防行動の一環として、マスク着用時は負荷の強い作業や激しい運動を避け、適宜マスクを外して休憩するよう周知 	エネ課、地域保健課	○
	<ul style="list-style-type: none"> ◆産業・経済活動 ・事業継続計画（BCP）の中小企業への普及啓発 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・商工会・商工会議所等との連携によるBCP普及啓発セミナー・ワークショップの開催及びBCP策定支援 	経営支援課	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆産業・経済活動 ・災害時に支援物資の保管を円滑に行うための、地方公共団体と倉庫業者等との支援物資保管協定の締結促進、民間物資拠点のリストの拡充・見直し 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・大阪倉庫協会等と『災害時における救援物資の保管等に関する協定』（H25.3）を締結 	災害対策課	
<ul style="list-style-type: none"> ・適応をビジネス機会と捉えた事業展開の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆産業・経済活動 ・気候変動の影響による国内外の被害を回避又は低減する優れた適応策の先進的導入及び積極的実践等に取り組んでいる事業者を表彰して、優良事例を広く周知し、府域の事業活動に伴う適応策を促進 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・H19より実施してきたおおさかストッパ温暖化賞の制度を改正し、従来の緩和分野に加え適応分野についても表彰対象とし、おおさか気候変動対策賞として顕彰を実施。令和3年度おおさか気候変動対策賞受賞事業者5事業者中2事業者が適応分野での受賞。 	エネ課	○
<ul style="list-style-type: none"> ・旅行者の安全確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◆観光業 ・外国人旅行者の安全確保（観光施設・宿泊施設における災害時初動対応マニュアルの作成支援、ウェブサイト・アプリ等を活用した多言語による災害情報・警報、被害情報、緊急電話のかけ方等の提供、同ウェブサイト・アプリの周知、外国人観光客の支援体制の検討、災害発生から開国までの支援フローの作成、外国人旅行者安全確保マニュアル（仮称）の作成） 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設を旅行者の一時滞在スペースとして活用できるよう、府内の宿泊施設と旅行者等の受入れに関する協定を締結した（4施設と締結）。 ・公益財団法人大阪府国際交流財団に「Osaka Safe Travels」の管理・運用を委託し、台風接近に伴う注意喚起等の情報発信を行った。 ・「Osaka Safe Travels」を周知するため、留学生等の在住外国人や、宿泊・交通事業者等へ広報カードを配布した。 	企画・観光課、国際課、防災企画課	
府民生活・都市生活	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ・ライフラインの機能の確保や安全性の高い道路網の整備等 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度で取組完了 	防災企画課、災害対策課	
	<ul style="list-style-type: none"> （インフラ・ライフライン） ◆ライフラインの確保 ・災害発生時における電力確保のための電気自動車、燃料電池自動車等の利活用促進 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日産大阪販売株式会社との包括連携協定に基づき、『災害時における電気自動車等の貸与に関する覚書』を締結 	災害対策課	
	<ul style="list-style-type: none"> （インフラ・ライフライン） ◆空港における適応策 ・関西エアポート社が運営する関西国際空港総合対策本部への参画により迅速な情報連携及び協力体制の実現 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・関西国際空港総合対策本部（KIX JCMG）運営協議会の参加（4月、7月、9月、10月、11月、1月、3月） 	成長戦略局	
	<ul style="list-style-type: none"> （インフラ・ライフライン） ◆港湾における適応策 ・港湾における物流機能の確保 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・耐震化対策が未実施の貝塚大橋の耐震化に着手した。 	大阪港湾局	
	<ul style="list-style-type: none"> （インフラ・ライフライン） ◆道路における適応策 ・安全性の高い道路網の整備、無電柱化等の推進 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府無電柱化推進計画に基づく事業の推進 	道路環境課	
	<ul style="list-style-type: none"> （インフラ・ライフライン） ◆道路における適応策 ・「道の駅」における防災機能の強化（市町村と連携した総合防災情報の提供施設化） 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」における防災機能の重要性周知や実例の情報提供等により府内「道の駅」の防災機能の強化を推進 	道路環境課、道路整備課	

2030年に向けて取り組む項目（⑦適応策）

取組みの方向性	具体的な取組内容	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課	ヒートアイランド対策
	(インフラ・ライフライン) ◆道路における適応策 ・災害時の道路啓開や応急復旧等による人命救助や緊急物資輸送への支援、併せて通行規制が行われている場合は道路情報表示板を活用した迅速な情報提供	○		・道路情報表示板の点検及び設置	道路環境課	

2030年に向けて取り組み項目（の適応策）

取組みの方向性	具体的な取組内容	実施状況 ○：実施中、◇：実施予定、▽：今後検討予定	実施状況(左欄)が ◇なら→開始予定年度 ▽なら→検討スケジュール	2022年度の状況	担当課	ヒートアイランド対策
<p>・街路樹等の整備による日射の遮蔽や建物や敷地、道路等におけるミスト散布など、屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善するためのクールスポットの創出や交通インフラによる人工排熱の低減</p>	<p>(その他(暑熱)) ◆緑化や水の活用による地表面被覆の改善 ・都市の緑の拠点となり、クールアイランドの拠点にも資する、公園の整備を引き続き、着実に推進</p>	○		<p>・公園拡大に向けた、既事業認可取得区域及び防災公園の施設の整備 ・防災公園、バリアフリー化等の機能拡大に向けた施設改修・再整備 ・老朽化の著しい施設等の機能保持に向けた施設改修・再整備 ・2022年度末における府営公園開設面積1,008.7ha</p>	公園課	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆緑化や水の活用による地表面被覆の改善 ・連続した緑陰形成を推進し、公園や公開空地等のクールスポットをネットワーク化する街路樹の適切な維持管理</p>	○		<p>・みどりの風促進区域における街路樹の維持管理、更新等 ・府道緑化路線139路線、576km 管理本数 中高木80千本、低木28ha (2022年度末時点) ・池田市、吹田市、八尾市で実施されているグリーンインフラ活用型都市構築支援事業の実施を支援</p>	公園課	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆緑化や水の活用による地表面被覆の改善 ・下水処理場の屋上緑化や場内への植栽を図り、木陰を提供するとともに、下水処理水を利用したせせらぎの配置</p>	○		<p>・2022年度に、新たに緑化を実施した処理場なし。引き続き、場内整備に合わせて実施していく予定。</p>	下水道室	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆緑化や水の活用による地表面被覆の改善 ・河川維持用水や打ち水等への下水処理水の利用を促進</p>	○		<p>・修景用水として、下水処理水の再利用を実施 ・打ち水イベントへの下水処理水の提供に関しては、2022年度の実績は集計中。</p>	下水道室	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆緑化や水の活用による地表面被覆の改善 ・市街化区域の歩道部において、主に補修や復旧の際に透水性舗装を整備</p>	○		<p>・透水性舗装の整備 ・歩道部の透水性舗装の整備 (2022年度の施工実績：12,806㎡)</p>	道路環境課	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆緑化や水の活用による地表面被覆の改善 ・道路や河川を中心に一定幅の沿線民有地を含む区域「みどりの風促進区域」において、公共空間と沿道民有地の緑化を推進</p>	○		<p>・みどりの風促進区域における沿道民有地の緑化整備補助 ・「みどりの風の道形成事業」による民有地緑化支援等、促進区域の緑化を推進 公共緑化 (換算) 実績なし (2022年度) 民有地緑化 植栽樹木13本 (2022年度)</p>	みどり企画課 公園課	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆緑化や水の活用による地表面被覆の改善 ・森林環境税の活用による「都市緑化を活用した猛暑対策事業」を通じた駅前広場などにおける植樹や暑熱環境改善設備の設置</p>	○		<p>・採択件数：37件 (駅前広場：6件、単独バス停：31件)</p>	みどり企画課	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆人間活動から排出される人工排熱の低減 ・一定規模以上の建築物の新築または増改築の際に省エネ基準適合の義務化及び再生可能エネルギー利用設備の導入促進</p>	○		<p>・大阪府温暖化防止条例に基づき、2015年度から省エネ基準への適合、再生可能エネルギー利用設備の導入検討を義務化し、2018年度から省エネ基準適合義務化の範囲を拡大</p>	建築環境課	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆人間活動から排出される人工排熱の低減 ・環境配慮の模範となる建築物に対する顕彰制度 (「おおさか環境にやさしい建築賞」「おおさか気候変動対策賞特別賞 (愛称：“涼”デザイン建築賞)」の実施</p>	○		<p>・「おおさか環境にやさしい建築賞」は大阪府知事賞1件、部門賞4件、「おおさか気候変動対策賞特別賞 (愛称：“涼”デザイン建築賞)」は特別賞6件を表彰。</p>	建築環境課	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆人間活動から排出される人工排熱の低減 ・放射、環状方向の道路、鉄道の整備による機能的な交通ネットワークの形成</p>	○		<p>・大阪都市再生環状道路を構成する阪神高速淀川左岸線の建設等を促進 ・街路の整備 (都)三国塚口線・(都)大阪住道線・(都)十三高槻線・(都)大阪岸和田南海線 ・道路の整備 新名神関連事業・国道170号・国道371号 なにわ筋線整備事業等の促進</p>	道路整備課、交通計画課	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆人間活動から排出される人工排熱の低減 ・自動車からの排熱減少に資する電動車の普及促進、エコドライブの推進、駐車時におけるアイドリングの規制や運転者等への普及啓発</p>	○		<p>・市町村職員を対象にしたエコドライブ実車講習会の実施 ・大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づくアイドリングストップの指導等の実施 ・事業者向けエコドライブ講習会を実施</p>	環境保全課	○
	<p>(その他(暑熱)) ◆クールスポットの創出、周知・活用 ・屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善するため、スポット的に効果があり、PR効果の高い場所へのクールスポットの周知啓発による普及促進</p>	○		<p>・日本ヒートアイランド学会が作成した、暑さマップに「都市緑化を活用した猛暑対策事業」で整備した箇所を掲載</p>	エネ課	○
<p>(その他(暑熱)) ◆クールスポットの創出、周知・活用 ・クールスポット・クールロードをホームページで紹介</p>	○		<p>・大阪府ホームページ「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」において、クールスポットの紹介</p>	エネ課 みどり企画課	○	
<p>基礎的・分野横断的</p>	<p>「気候変動への適応に係る影響・施策集」のとりまとめ 科学的知見の充実 大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム 温暖化「適応」推進事業</p>	○		<p>・大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム主催のセミナーを7月25日および1月23日に開催</p>	エネ課	○